

京都の伝統的家居である町家の人気が根強い。

「京都らしさ」や「癒やし」を求める人を対象に町家を改装した店舗が増えていくが、宿泊施設やSOHO（スモールオフィス・ホームオフィス）も登場した。景観保全だけでなく、新たなビジネスも作り出している。

不動産賃貸のフラットエージェンシー（京都市、吉田光一社長）は、京都家体験館「風見館（かからつと）」をオープンした。

ギャラリーや宿泊施設として貸し出し、ホテルや短期賃貸マンションと同様に利用できる。町間に七カ〜八万円、長期客に泊まりたいという観光客の要望に応えた。

大徳寺の近くにある風見館は二階建てで台所を除いて六部屋ある。延べ床面積は約七十八平方メートル。店舗に使われていた町家を改装した。宿泊客おうちとあえて風呂場を設けず、銭湯利用券を無料提供し、徒歩十分圏に十力所ある銭湯を利用し

町家の雰囲気漂う中、ラーメン店7店舗が並ぶ「京都拉麺小路」(京都駅ビル)

「町家風」広がる



でも、宿泊は一週間に限

る。料金は宿泊人数（最多五人まで）により一週間で七カ〜八万円、長期滞在には割引がある。同社は物件があれば同様の宿泊施設を増やす。

任意団体の町家倶楽部、ネットワーク（京都市、財木孝太理事長）は、西陣地区の町家を改装してSOHOを提供している。町家の持ち主の依頼で、デザイナーらが集う事務所や店舗を自出し、同地区を活性化させる。西陣地区にはかつて西

商業・宿泊からSOHOまで

陣職人の住居だった空中小路」として二日、新築開店した。約一億五千万円を投じた改装で、業者数を二、三千人と改築前の一・五倍に伸ばす目標だ。

「建築やデザインなどを学ぶ若者向けの場所として復活させたい」と話している。後面積は九百九十平方メートル（このうち店舗分は四百三十二平方メートル）で、合計三百五十席を用意した。京都駅を利用する観光客のほか、全国同士の「R京都伊勢丹」のラーメン店を7店舗集める。京都拉麺（ラーメン）。